

侵食シミュレーションから示唆される海水準変動と不調和な波食地形  
Discordancy between coastal topography formed by wave erosion and relative sea-level  
change in a numerical experiment

山口 直文<sup>1\*</sup>

Naofumi Yamaguchi<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター

<sup>1</sup>Center for Water Environment Studies, Ibaraki University

岩石海岸において波浪による侵食が作り出す地形と海水準変動の関係について調べるため、数値シミュレーション実験を行った。この侵食モデルでは、砕波帯の幅に依存して侵食力が減少することを考慮している。数値実験では、潮汐の有無や岩石強度、初期地形の傾斜を変化させ、様々な相対的海水準変動の下で波食地形を発達させた。実験の結果、海水準の停滞期の履歴が残りにくい場合や、海水準の急激な変動を伴わないステップ状の地形が形成される場合があることが示唆された。

キーワード: 侵食, 波食, 海岸地形, 波浪, 海水準変動, シミュレーション